

幕末維新と松山藩

時代の激流、人びとの決断

平成三十年は、明治維新から一五〇年を迎える節目の年です。日本が近代国家としての歩みを踏み出したその時、松山藩と松山の人びとはどのような状況に置かれたのでしょうか。

松山藩は江戸幕府の親藩であったため、長州戦争・戊辰戦争などの幕末維新期の動乱の中で、一貫して幕府方として行動し、その結果、新政府から「朝敵」とされ追討令を受けます。弱冠二十二歳の若き十四代藩主・松平定昭と藩士たちは、かつてない難局に対峙することになり、新政府軍の土佐藩・長州藩兵などが松山に迫りくる中、抗戦か降伏かという大きな決断を迫られます。松山城を舞台に藩を二分して議論が続けられました。若き藩主の良き理解者で側近の大原観山(正岡子規の祖父)や筆頭家老・奥平弾正、藤野海南など文化的素養を持つ有能な藩士たちの尽力により、定昭は降伏という決断を下します。この英断により、松山の人びとは戦禍を免れ、「明治」という新時代に向けて、逆境の中から力強く再出発の一歩を踏み出しました。

今回の特別企画展では、明治一五〇年を記念し、初公開のものを含む幕末維新期の松山藩と松山の人びとに関連する資料を一堂に展示し、新時代「明治」の激流に向き合った松山の人びとの軌跡に迫ります。

観覧料：個人 400円 団体 320円 65歳以上 200円 小中高校生 無料

特典／常設展とセットで特別企画展の観覧券を購入する場合、特別企画展の観覧料は2割引、子規博友の会会員が特別企画展の観覧券を購入する場合、特別企画展の観覧料は2割引

学芸員によるギャラリートーク

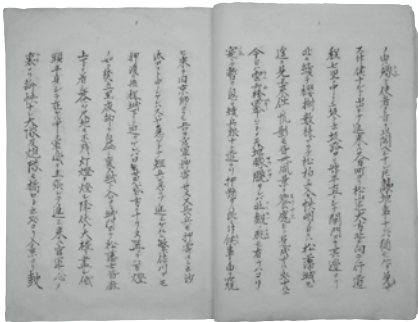
日時：8月12日(日)、8月25日(土)

ともに午前10時30分より50分程度

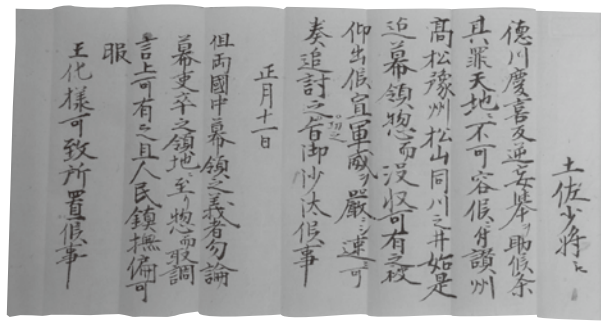
会場：3階特別展示室 ※聴講には特別企画展の観覧券が必要



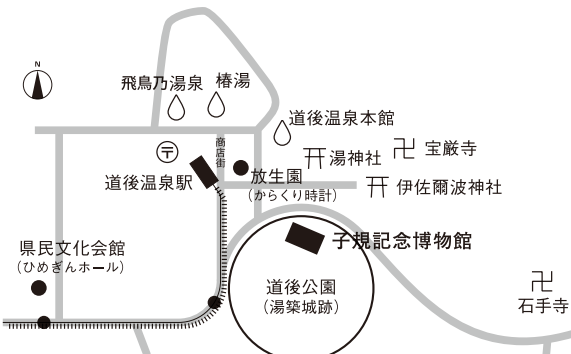
ウィンチエスター銃66年式 (安芸市立歴史民俗資料館所蔵)



吉村春峰筆「松山開城記」(高知県立図書館所蔵)



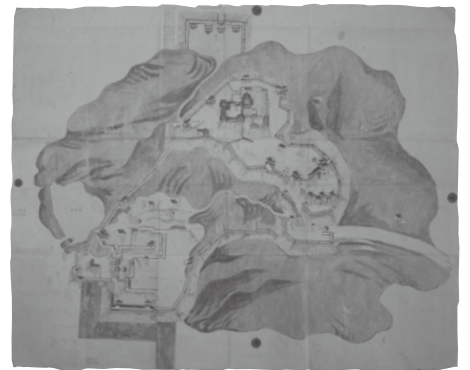
高松・松山・川之江始幕領征討の沙汰書 (安芸市立歴史民俗資料館所蔵)



道後温泉駅より徒歩約5分／道後公園駅より徒歩約5分
※公共の交通機関をなるべくご利用ください



大原観山旧蔵印章 (個人蔵)



大原観山旧蔵「松山城図」(個人蔵)

松山市立子規記念博物館

Tel 089-931-5566 〒790-0857 松山市道後公園 1-30 施設運営・管理／株式会社レスパスコーポレーション <http://sikhaku.lesp.co.jp/>